



向かい風を追い風に変える底力

この度、(一社)日本航空宇宙工業会の理事を拝命しましたナプテスコ株式会社航空宇宙カンパニー社長 高木憲優です。今期はまた、広報委員会の委員長にも選任をいただき責任の重さを感じております。微力ですが、航空宇宙産業の発展に少しでも貢献できればと願っております。

さて、弊社は航空機ビジネスに約60年間携わり、主力製品のフライトコントロール・アクチュエーション (FCA) システムを始め、油圧機器、電源製品、エンジン・燃料機器等を、防民双方のプログラムに提供しております。

民航ビジネスの歴史は1970年代に遡り、米国民航市場進出方針を下した1972年を皮切りに、諸先輩による強い決意および合言葉である「世界一のお客様に、自分たちの一番の得意製品を、自分たちの力で!」をモットーに邁進し、1975年には世界最大クラスのボーイング市場参入を果たした歴史がございます。近年では、2013年にB737MAX用FBW (Fly-By-Wire) スポイラー・アクチュエーター、そして2015年にB777X用FCAシステムの受注に至り、現在はB787を除くボーイング機の全FBWアクチュエーターを納入しております。このような中、FCAシステムのトップサプライヤーとしての地位盤石化にとって、競争優位性強化が重要と考えてきました。新規技術開発をはじめ、「ものづくり力」「環境対応力」「すり合わせ力」を生かすことはもとより、資本力に優る海外企業に伍していくには、国内装備品各社様との一層の連携強化が不可欠と考えます。

一方で世界に目を向けますと、米中貿易摩擦、英国のEU離脱、アジア地政学上の混乱、また

国内にあっては消費増税の影響発現などが見通せない年が続いておりましたが、それ以上に予想外の新型コロナ禍が国内外経済に大きな下方影響を与える年となりました。特に航空業界におけるインパクトは非常に大きく、且つ数年にも及ぶ見込みで大変厳しい状況にあります。

しかしながら、民航市場は長期的視点では従来同様の成長が期待されます。したがって会員各社様同様、弊社はこの苦しい時に強靱化を果たし、将来の市場成長の際に自らも確実に事業成長することを目標に掲げております。

ポストコロナ時代の新たな機体にはゼロエミッション対応を始め、これまでとは異なる環境性能が求められることは想像に難くありません。Sustainable社会に貢献できる新たな技術や生産体制を、向こう数年で推進したいものです。

これまで培ってきた高いQCDパフォーマンス、顧客要望への対応・実践力およびこれらを統括するマネジメントのノウ・ハウに加え、新たな技術を将来の機体プログラムに活かしつつ、「安全・安心・快適」で皆様を目的地にお送りするFCAシステムのトップサプライヤーとして“向かい風を追い風に変える底力”を発揮し、社会とともに成長・発展できるよう鋭意努力する決意です。

最後に、会員各社様の諸活動が一日も早く従来の活況を取り戻す日が訪れることを願い、(一社)日本航空宇宙工業会の理事として、また広報委員会委員長としての重責を全うすべく努力致します。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。